

第 85 回日本癌学会学術総会 参加レポート

京都大学大学院医学研究科附属がん免疫総合研究センター

がん免疫応答制御部門

北岡 功次

2026 年 9 月 24 日から 26 日に国立京都国際会館で開催された第 85 回日本癌学会学術総会に参加しました。本学術総会では「がん克服へ向けた知の挑戦」をテーマとして、がん生物学、腫瘍免疫、代謝、ゲノム・エピゲノム解析、細胞治療など、基礎研究から臨床応用まで幅広い領域の最新の研究成果が発表されました。国内外の第一線で活躍する研究者が集まり、分野を越えた活発な議論が行われる貴重な機会となりました。学会としても、若手研究者の育成と異分野間の「知の融合」が重要な柱として掲げられていました。

私は現在、がん免疫応答、特に CD8⁺ T 細胞の代謝やミトコンドリア機能と免疫応答との関係について研究しています。本学術総会では、「Mitochondrial ROS regulates developmental progression and cell fate during early CD8⁺ T cell differentiation」と題して研究成果を発表しました。本研究では、CD8⁺ T 細胞の分化とミトコンドリア代謝との関連について検討しています。今回の発表を通じて、多くの研究者から質問や意見をいただき、自身の研究を異なる視点から捉え直すとともに、今後の研究を発展させるうえで有益な議論を行うことができました。

また、本学術総会では、がん免疫、免疫代謝、腫瘍微小環境など、自身の研究と密接に関連する研究領域について多くの最新知見に触れることができました。特に、T 細胞の機能制御や代謝リプログラミング、ミトコンドリア機能、骨髄系細胞を介した腫瘍微小環境の制御など、多角的な視点からがん免疫応答を理解する研究が数多く発表されており、大変刺激を受けました。実際に本学術総会では、T 細胞疲弊と代謝リプログラミングを扱うセッションをはじめ、がん免疫に関連する幅広い研究が取り上げられていました。

今回の学術総会への参加を通じて、自身の研究成果を発信するとともに、がん研究の幅広い領域における最新の知見に触れ、多くの研究者との交流を深めることができました。今回得られた知見や議論を今後の研究活動に活かし、がん免疫応答の理解をさらに深めるとともに、将来的ながん免疫療法の発展につながる研究へと展開していきたいと考えています。

最後になりましたが、このような貴重な機会をご支援いただきました BioLegend ならびに関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。